

事業コード	H19-建-再-3		区 分	国庫補助 県単独
事業名	広域河川改修事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	河川		班 名	河川・海岸・防災班 (tel) 018-860-2515
路線名等	二級河川 馬踏川		担当課長名	萩野 敏明
箇所名	秋田市金足岩瀬		担当者名	主幹(兼)班長 菅原 俊幸
総合計画との関連	政策コード	C	政 策 名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施 策 名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	06	施策目標(指標)名	河川整備率

1. 事業の概要

事業期間	H05 ~ H23 (19年)		総事業費	32.0億円	国庫補助率	1/2
事業規模	計画延長 L = 1,570m 計画高水流量 Q = 90m ³ /S (1/30)					
事業の立案に至る背景	馬踏川は、秋田市と潟上市を貫流し八郎潟に流入する二級河川である。当該区間は、川幅が狭く降雨の度に家屋の浸水、田畑の冠水が発生する水害常襲地帯である。平成7年度から「床上浸水対策特別緊急事業」として、一部区間について事業の促進を図っているが、引き続き河積の不足している区間の拡幅を進めていくものである。					
事業目的	S62.8洪水規模相当の浸水被害を防止するため、法線の是正を図り河積の拡大を行い、浸水被害の解消を図る。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		3,194,000	3,194,000	0	
	経費内訳	工事費	1,613,000	1,613,000	0	
		用補費	1,112,000	1,112,000	0	
		その他	469,000	469,000	0	
	財源内訳	国庫補助	1,597,000	1,597,000	0	
		県 債	1,437,300	1,437,300	0	
その他		0	0	0		
一般財源		159,700	159,700	0		
事業内容	築堤、河道掘削工、護岸工、橋梁工、用地補償費	築堤、河道掘削工、護岸工、橋梁工、用地補償費			平成16年度評価時より変更なし	
事業の進捗状況	全体計画	31.9億円	平成19年度末投資額	26.7億円	進捗率	83.7%
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	特になし					
情勢の変化及び長期継続の理由	当該区間は河川沿いに住宅が密集しており、浸水被害の中心は家屋浸水が中心となり、地元からは、早期の完成を望まれているものの、家屋補償等に期間を要している(移転先や時期)。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	河川整備率				
	指標式	河川整備率 = 整備延長 / 要整備延長				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	44.7 %		データ等の出典	河川砂防課	
	実績値 b	44.6 %				
達成率 b/a	99.8 %		把握の時期	平成19年 3 月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	なし
	指摘事項への対応
	なし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	当該区間は浸水常襲地域であり、特にS62.8洪水では221戸の家屋が浸水した。	26点
緊 急 性	当該河川は、流下能力が40%未満と低く、洪水被害が繰り返される状況にある。人家連担地であるため、水防計画重要水防区域として位置づけられている。	15点
有 効 性	手段の妥当性 指定区間における河川改修は河川法により都道府県知事が行うものとして位置づけられている。また、本地区において洪水被害を低減させるためには、河道改修が妥当である。 整備効果 改修を実施する区間については、堤防も無く川幅も狭小なことから、築堤及び河道掘削により洪水時の河川水が安全に流下させることが出来るので、有効性は高い。	20点
効 率 性	(費用対効果) 事業の費用便益費は1.79あることから効率性は高い。 (コスト縮減の取り組み状況) 発生残土の他工区への流用による活用。 既存護岸を取り壊した際の発生するガラを再生材として利用する。 樋管の統廃合を進める。	15点
熟 度	(地域の状況) 地元より河川改修事業に対し早期完成を望む強い要望がある。 (事業進捗の見込み) 順次上流部へ工事を実施し平成23年度の完成を目指している。 (環境対策) 河道拡幅に伴う掘削面は、現地種の植生に配慮する。洪水時に魚の避難場所となる「よどみ」を創出するよう努めており、必要箇所については	15点
判 定	ランク () 地元からの要望が高く、「必要性」、「有効性」、「効率性」が高く評価できる。	91点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 河川改修事業

事業コード(H19-建-再-3)
箇所名 (秋田市金足岩瀬)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	想定氾濫区域内の状況 浸水戸数	50戸以上	10	10	
		49~10戸	7		
		10戸未満	3		
	浸水面積	60ha以上	10	10	
		59~10ha	7		
		10ha未満	3		
	重要な公共施設	3施設以上	5	3	
		2~1施設	3		
		無し	0		
	整備計画の策定 関係者、関係機関との調整		整備計画策定済み	5	
		協議中であるが特段問題ない	3		
		策定に着手していないが予定がある	1		
		予定無し	0		
計			30	26	
緊急性	災害発生危険度 改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満	10	10	
		40~59%	7		
		60%以上	5		
	秋田県水防計画 重要水防地域	評定基準区分A	5	5	
		評定基準区分B	3		
計			15	15	
有効性	上位計画への貢献度 あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い	5	5	
		施策目標に間接的に貢献する	3		
		施策目標とは別のその他関連事業である	0		
	河川整備の有効性 安全度	災害防止等効果が発現する	7	7	
		災害防止効果は現状と変わらない	0		
	親水性	安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	5	
		親水性は現状と変わらない	0		
地域開発の状況	都市計画区域の存する地域	3	3		
	地域開発の計画がある	1			
計			20	20	
効率性	事業の投資効果 費用便益比(B/C)	1.0以上	5	5	
		1.0未満	0		
	事業実施コストの縮減 該当項目数	3項目以上	5	5	
		2項目	3		
		1項目	1		
		無し	0		
当初計画との比較 当初計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加	5	5		
	10%以上30%未満の増加	3			
	30%以上の増加	0			
計			15	15	
熟度	環境との調和への配慮状況 環境保全への配慮	十分に配慮されている	5	5	
		配慮が不十分で検討している	3		
		特に配慮はない	0		
	地元との合意形成の状況 地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5	
		意向が強く要件の同意を概ね得ている	3		
		意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	1		
	事業の進捗状況 進捗率	計画より進捗している	10	5	
概ね進捗(90~100%未満)		5			
計画より遅れている(90%未満)		3			
計			20	15	
合計			100	91	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		